

# 果樹病害虫発生状況（6月）

令和2年6月29日  
福島県病害虫防除所

## 1 リンゴ（調査地点：中通り22園地、会津12園地）

### （1）斑点落葉病

新梢葉での発生ほ場割合は、平年よりやや低い状況でした（図1）。

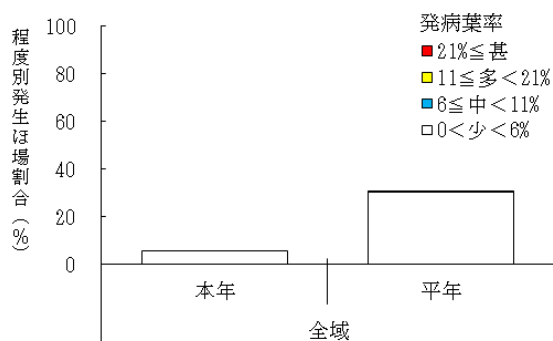


図1 リンゴ斑点落葉病の発生状況（6月下旬）

### （2）褐斑病

新梢葉での発生は確認されず、発生ほ場割合は平年並でした（図2）。

梅雨時期で降雨日が多くなるため、散布間隔を空けずに薬剤散布を実施しましょう。

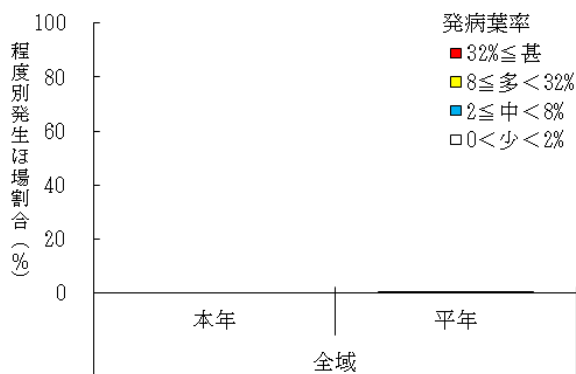


図2 リンゴ褐斑病の発生状況（6月下旬）

### （3）黒星病

中通りでは、平年同様に発生が確認されませんでした。会津では、新梢葉での発生ほ場割合は平年よりやや高く（図3）、果実でも発生が見られました。

発病部位は徹底して除去し、園外に持ち出して適切に処分しましょう。薬剤散布は散布ムラがないように丁寧に実施しましょう。

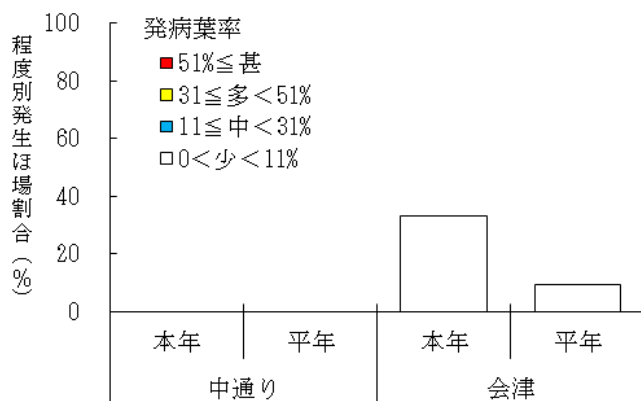


図3 リンゴ黒星病の発生状況（6月下旬）

#### (4) キンモンホソガ

新梢葉での発生ほ場割合は、平年並でした。(図4)。

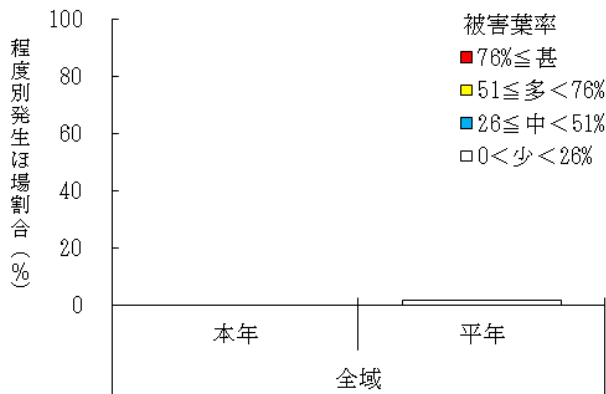


図4 キンモンホソガの被害発生状況 (6月下旬)

## 2 モモ (調査地点: 福島地域9園地、伊達地域9園地)

### (1) 灰星病

果実での発生は確認されませんでした。

### (2) せん孔細菌病

新梢葉での発生ほ場割合は、平年よりやや高く、発病葉率の高いほ場も見られました(図5)。

果実での発生ほ場割合は、平年より高く、発病果率の高いほ場も見られました(図6)。

再度園地を見回り、罹病部位は見つけしだい除去し、園外に持ち出すなど適切に処分しましょう。薬剤散布は降雨前の実施を基本とし、散布間隔が空きすぎないように実施しましょう。発生拡大が懸念される園地では、仕上げ摘果実施後、速やかに袋かけを実施しましょう(防除情報参照)。

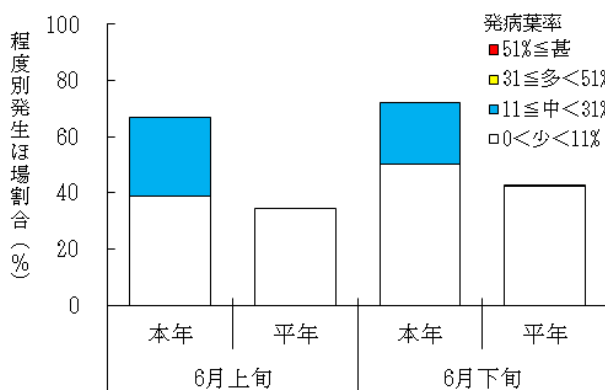


図5 モモせん孔細菌新梢葉の発生状況

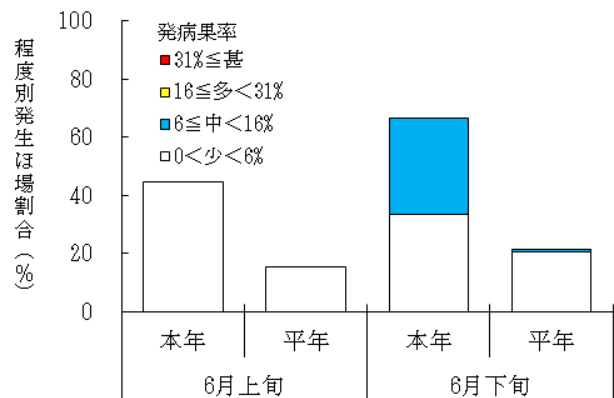


図6 モモせん孔細菌病果実の発生状況

### (3) モモハモグリガ

新梢葉での発生ほ場割合は、平年並でした（図7）。  
園地を見回り、幼虫発生初期に薬剤散布を実施しましょう。

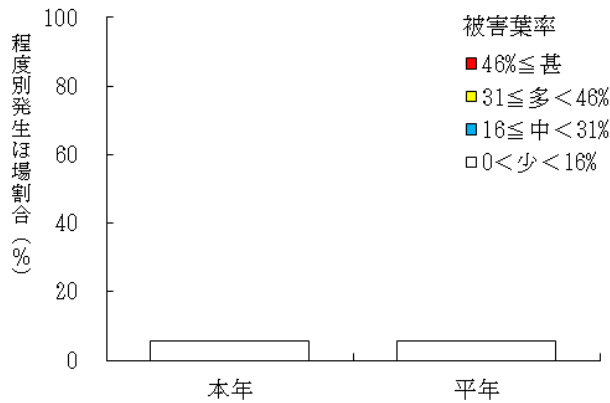


図7 モモハモグリガの被害発生状況 (6月下旬)

## 3 ナシ (調査地点: 中通り 19 園地、浜通り 10 園地)

### (1) 黒星病

新梢葉での発生ほ場割合は、平年並でした（図8）。

果実での発生ほ場割合は、平年よりやや高い状況でした（図9）。

園内をよく見回り、罹病部位の早期発見・早期除去を徹底しましょう。薬剤散布は散布間隔が空きすぎないように実施するとともに、天候に留意して降雨前に実施しましょう（注意報3号参照）。

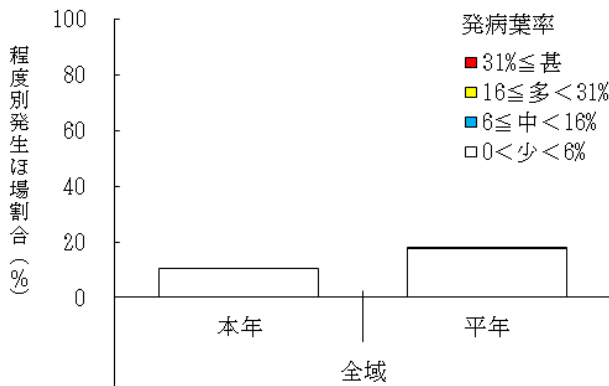


図8 ナシ黒星病新梢葉の発生状況 (6月下旬)

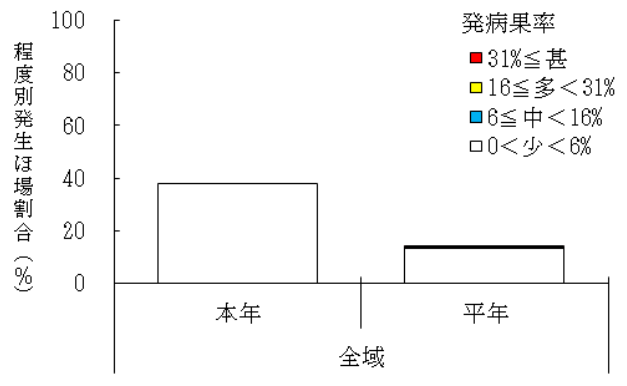


図9 ナシ黒星病果実の発生状況 (6月下旬)

## 4 果樹共通 (調査地点: リンゴ 34 園地、ナシ 29 園地、モモ 18 園地)

### (1) カメムシ類

フェロモントラップ調査において、6月の果樹カメムシ類の誘殺数が、調査地点8地点中3地点で例年より多く確認されました。

園地での飛来状況をよく観察し、飛来を確認したら速やかに薬剤散布を実施しましょう（注意報4号参照）。

## (2) アブラムシ類

新梢での寄生ほ場割合は、平年並でした（図10）。

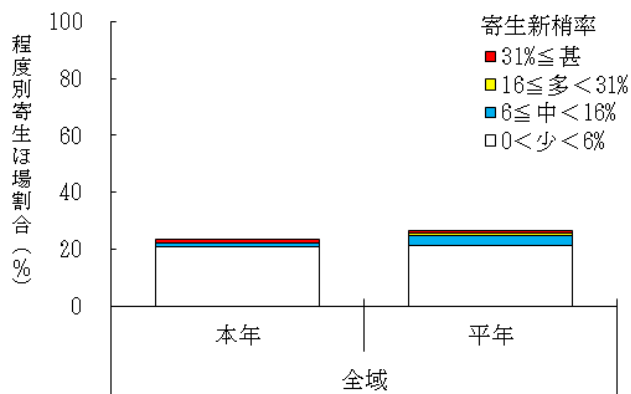


図10 アブラムシ類の新梢寄生状況（6月下旬）

## (3) ハダニ類

新梢での寄生ほ場割合は、平年並でした（図11）。

要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭以上）に達した場合は、薬剤散布を実施しましょう。

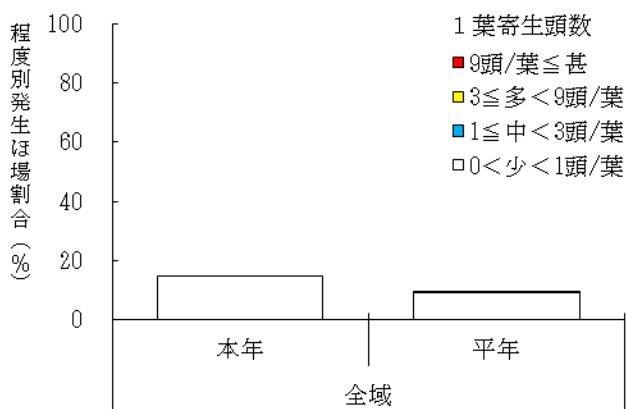


図11 ハダニ類の新梢寄生状況（6月下旬）